

第68回CSW（国連女性の地位委員会） 参加メンバー募集！

📣CSWとは：毎年3月に開かれる、女性の地位向上を目的とする国連加盟国の会議。日本YWCAを含む世界のNGOは、CSWの会期中に、各国政府関係者への直接折衝、CSW本会議への陪席・発言、各国政府主催のサイドイベントや政府のブリーフィングへの参加、参加NGO同士での情報共有・ネットワーキングなど、精力的に活動します。世界YWCAは、NGO・市民社会としてCSWの設立に大きな役割を果たし、毎年代表団を派遣して情報提供やメッセージの発信を行っています。

📣目的:若い女性のリーダーシップとエンパワメントを国連の場で発信し、広げることです。このたび、同会議に日本YWCAから出席し、パラレルイベントで発表をするユースの参加者を募集します。

CSW開催期間： 2024年3月11日（月）～22日（金）

現地派遣期間： 2024年3月10日（日）～16日（土）

日本YWCAによるパラレルイベント開催： 3月11日（水）～3月15日（金）のうち1日

場所： ニューヨーク（米国）国連本部or周辺のNGO拠点

テーマ： Accelerating the achievement of gender equality and the empowerment of all women and girls by addressing poverty and strengthening institutions and financing with a gender perspective.

貧困に対処し、ジェンダーの考えとともに制度を強化、資金調達をすることで、ジェンダー平等とすべての女性と少女のエンパワメント達成を促進する。

応募締切：10月9日（月）

📣選考・決定：9月中に、昨年度のCSW派遣者に質問ができるQ&Aセッションを複数回予定しています。応募を検討される方はぜひご参加ください。10月中旬に面接（遠方の方はオンライン）を行い、書類審査と合わせて選考し、10月末には結果をお知らせします。



参加者募集要項

参加条件： ①～⑥のすべてを満たす方

①日本YWCAの目的・方針に賛同し、ジェンダーや女性の人権に関心がある方。

②20歳～30歳のYWCA会員（女性／新規入会可）で、所属YWCAの推薦が得られる方。

※新規入会・推薦についてはお近くの地域YWCAにご相談ください。（全国24の地域にYWCAがあります。）

全国の地域YWCA一覧：<http://www.ywca.or.jp/network/japan>

③参加後最低2年間、YWCAの活動に継続して関わる意志があること。

④派遣前に日本YWCAや地域YWCAの活動に参加し、そこでの学びを他の参加者と共有できること。

⑤派遣前に事前準備会に参加できること。

※参加準備のため、ZOOMにて2023年11月～2024年3月の期間に最低月1回程度の準備会を行います。原則として、平日夜か土曜日の開催を想定しており、詳細は、選考の結果参加が決まった方とご相談の上、ご案内します。

⑥派遣後、日本YWCAへ報告書を提出するとともに報告会を行うこと。

費用： 実費、すべて自己負担（ただし上限を10万円とする研修補助あり）

【昨年度参考】往復航空券17.5万、宿泊費2万×8泊、食費1食1,000円～（昨年度の宿泊費には朝食が含まれていません。交通費（航空券・NYでの公共交通機関利用費）、食費、宿泊費等込みで50万円程度を想定しています。（現在米国内の物価が高く、かつ円安が進行している関係で、例年と比べ高額となっています。）期間中は、複数回会食を予定しています。（～3,500円程度/回）

※ 海外旅行保険は、規定により日本YWCAで団体加入します。

※16日以降ニューヨークに滞在希望の方は、別途ご自身で保険をかけてください。



📌 派遣にあたっての注意事項

①募集人数：5名（最少催行人数3名に満たない場合オンラインでパラレルイベントを行います。）

②研修補助：1人最大10万円を補助する日本YWCAユースエンパワメント基金に申請することができます。

※住民税非課税世帯の方には、別途補助の可能性があります（上限10万円程度・金額は申請者数などによって決まります）。お申込み前にご相談ください。

③現地集合・現地解散を基本とします。宿泊場所・航空券の手配はご自分でしていただきますが、ご不明な点がありましたらご相談ください。

※日本YWCAのスタッフが引率します。プログラム詳細は、選考の結果参加が決まった方へご案内します。

※万が一、新型コロナウイルス感染症等に罹患した場合等もスタッフは随伴せず、参加者が自分の責任において現地当局等と手続きします。医療機関等の情報は事前に共有し、現地相談先としてはニューヨークYWCAを紹介します。

📌 参加者の役割、CSWでできること：

・ 日本から見える、女性の権利に関する課題について、あらゆるチャンスで発言・共有・質問をする。日本のYWCAが大切にしているテーマ・姿勢を伝える。同時に、現地では自分の意志と判断で、得られるチャンスを柔軟に活用する。

・ 日本YWCAによるパラレルイベントを企画・実施する。

・ 世界YWCAや他国YWCA、世界中の女性団体が主催するトレーニング、NGOイベントやサイドイベントに参加する。

・ 女性と少女の権利、若い女性のリーダーシップなどを求める世界YWCAのアドボカシー活動に参加する。

・ 現地レポート（SNS）と報告書を作成し、成果と課題を共有する。

◆申込み：「参加者応募用紙」を、お近くの地域YWCAまでメール・Fax・郵送にてお送りください。全国の地域YWCA一覧：

<http://www.ywca.or.jp/network/japan>

<主催・問合せ> 公益財団法人日本YWCA（臼井、畠）

〒101-0062千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室

Tel: 03-3292-6121

Fax: 03-3292-6122

office-japan@ywca.or.jp

2023年度派遣者の声

日本YWCA機関紙に掲載された報告を掲載します。



米国YWCA主催のレセプションに臨んだユースたち。世界のYWCAの仲間と交流を深めた

CSW67派遣報告 出会いと躍動の9日間

●2023年3月5日(日)～11日(土) ●主会場：ニューヨーク国連本部

CSWは、毎年3月にニューヨークで開催される、女性の地位向上を目的とした会議です。日本YWCAは例年この会議にユースメンバーを派遣。今年は3年ぶりの現地派遣として、オンライン参加の1名を含む5名を送り出しました。

3月4日、ニューヨークへ飛び立ったユースたち。時差ぼけと長時間移動の疲労の中、目まぐるしくも刺激的な9日間を過ごしました。

ユースたちのハイライトは、2日目に実施したパラレルイベントです。今回は、「ソーシャルメディアと性的搾取」をテーマに、オンラインと現地のハイブリッドで1時間半にわたって開催。対面約40名、オンライン約60名が参加しました。前年の秋から準備をしてきた彼女たちは、日本のマスメディアにおけるジェンダーバイアスについて、そしてソーシャルメディアと子どものオンライン性的搾取についての問題分析と展望を発表。後半は、参加者と共に今後の活動のアイデアを出し合うアクティビティを行いました。

イベントでは、オンラインツールを駆使して、対面とオンラインの垣根をなくそうと試みましたが、機材のトラブルなど、ハイブリッド方式での発表はなかなか困難なものでした。それでも、意欲的な内容と構成で、各国の参加者から好評を博しました。また、ユースの1名が日本の通信社の取材を受け、パラレルイベントの取り組みが複数の国内メディアで配信されました。

パラレルイベントを振り返り、5名は、次のような感想を伝えています。

●「イベントは成功した！」と参加者の真剣に考える顔を見て確信を持ちました。「もっと自分の言葉で伝えたい、話したい」と思えるような気持ちの変化を感じました。

東京YWCA N・K

●発表中や発表終了後に参加者から、「調査を含めてよく準備されていて、大変素晴らしい」といった感想を複数もらい、達成感と充足感を感じました。

京都YWCA M・N

●当日はさまざまなトラブルに見舞われましたが、準備期間の私たちのリサーチ、そしてプレゼンテーションの出来には非常に満足しており、努力の結晶だと思っています。

名古屋YWCA S・T

●CSW67は終了しましたが、ここで終わりではなく、ここがスタート地点として、性搾取の被害にあう子どもを一人でも多く減らすために、私にできる行動を考えて始めていきます。

名古屋YWCA S・F

●何度も壁にぶつかり、そのたびにメンバーと共に悩み、考え直し、進み、ゼロから1を創り上げてきたその過程と時間、そして何よりこのパラレルイベントは私自身にとってかけがえのない大切なモノであり、今後私自身が進

むための確かな指針となりました。

名古屋YWCA N・M

パラレルイベントという大仕事を成し遂げた後も、彼女たちは他のNGOや政府主催のイベントに参加し、知見を広げると共に内外の人々と交流しました。また、過密スケジュールの合間を縫ってパレスチナYWCAのメンバーと自由の女神像を見に行ったり、多国籍料理を味わったりと寸暇を惜しんで活動しました。最終日は、ユース・フォーラムに参加し、世界中のユースと車座になって話をしました。

たくさん経験を持ち帰り、彼女たちは今、新たな気持ちでYWCAリーダーとして歩みを進めています。

日本YWCA職員 島舞衣子



「女子アナ」を例に挙げ、日本に根深いルッキズムとエイジズムを多角的に分析して発表した